

## 岡谷市鮎沢区の史跡 中編

鮎沢 毅

## 4 無くなった天竜川沿いの家並み

岡谷方面から観蛸橋を渡り駒沢辰野方面へ向かう道は伊那街道後に岡谷街道と呼ばれた。大正9年からは「県道下諏訪辰野線」と呼んでいる。観蛸橋から現在の陸橋辺には天竜川と県道の間にかつての家々があり、舟を待ち川魚やシジミをとったり、菓子屋・貸し

ボート屋などもあり、家々は軒を連ねて生活していた。大正12年川岸駅を開設するに当たり、踏切を陸橋に替えた。家々の前の県道は盛り土され坂道は高まり、家々の屋根を越える所もあった。その後これらの家々も道路と西天竜護岸の拡幅で移転をせざるをえなかった。川辺の一角に「天竜治水記念碑」が残されている。移転および地区外転。出18戸とあるが、今は当時を偲ぶものはほとんど残っていない。

◆ 沿革  
5 観蛸橋 ホタルが乱舞した橋場

江戸時代鮎沢橋または大橋と呼ばれ、諏

訪と伊那を結ぶ大変重要な橋であった。初めて橋を架けたのは宝永5年(1705)それ以前は渡しであった。  
江戸時代何回か天竜川の満水などで橋が落ち架けかえられている。

橋の位置もたびたび変わっているが現在の橋場になったのは寛政年中(1789~1801)である。

明治12年川岸村から長野県宛提出した願書「橋架替願」によると場所は橋場で橋の長さは22間、橋幅は1間4尺、橋名は「蛸観橋」となっているが、翌13年1月には誤ったので「観蛸橋」と更正していただいたと願い出ている。昭和9年には木橋からコンクリート橋にしている。

ホタルをデザインしたり、バルコニーも見られた。しかしその後交通状況の変革もあり、幅5.5mで道路も両岸で直角に曲がっており、交通渋滞で朝夕の通勤争いが再三起きた。昭和60年8月に竣工した現在の橋では、歩道と旧橋と同様バルコニーを上下流側に設け、ホタルとムラサキツユクサのパネルが親柱と欄干にあり、橋はゆるやかなカーブして車の流れをスムーズにした。

## ◆ 橋名

記録にもあるよう橋場に明治のころホタルの名所で時期になると、ホタル合戦で火の玉のように乱舞していたという。明治天



観蛸橋から駅陸橋方面を撮影、昭和55年10月13日 筆者撮影



駅陸橋から観蛸橋方面を撮影、昭和55年10月13日 筆者撮影